

新アリーナの実現に向けた協議会(第1回) 共同記者会見録

日 時: 令和 8 年 7 月 7 日(火)19 時 10 分から約30分

場 所: エディオンピースウイング広島 4F ビジネスラウンジ

参加者: 【委員】敬称略・順不同

広島県知事 横田 美香

広島市長 松井 一實

広島商工会議所会頭 松藤 研介

西日本旅客鉄道株式会社広島支社長 飯田 稔督

一般社団法人広島イベント事業振興協会理事長 松本 朋憲(発起人)

株式会社広島ドラゴンフライズ代表取締役社長 浦 伸嘉(発起人)

(※本会見録について、発言趣旨が変わらない範囲で、口語体を文語体にするなど修正しています。)

(司会)

それでは質疑応答を行います。

質疑につきましては、まず代表幹事社であるテレビ新広島様からご質問いただき、その後、各報道機関から順次ご質問をお受けいたします。

最後に出席者全員での記念撮影を行いますので、この後、30 分程度で終了させていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

なお、ご質問の際は、はじめに社名と、どなたへの質問か、回答者をご指名のうえをお知らせください。それではテレビ新広島の石井さん、よろしくお願いいたします。

(テレビ新広島)

テレビ新広島の石井です。代表から4つ質問させていただこうと思います。まず、2018 年から始まって、この場を迎えられたということで、抱負を浦社長、横田知事、松井市長よりお聞かせください。

(広島ドラゴンフライズ 浦社長)

ご質問ありがとうございます。素直に大変嬉しく思っております。コロナ禍もあり、この新アリーナの検討が少し止まったりして、B プレミアが今シーズンから始まりますけれども、そこに入るために広島県さんにご協力していただかないと難しい状況の中、このように助けていただきまして、グリーンアリーナさんを使わせていただけることになりました。ただ今日もご説明しましたとおり、本当にグリーンアリーナさんはすごく高稼働で、我々が 24 試合とか 26 試合やるのが負担になってきますので、なるべく早く、新アリーナのことを進めていかないといけないという中で、少し時間はかかりましたけれども、ようやくこのように皆様に集まっていいただいて、いよいよ本格的にこの夢のアリーナが、実現するようなスタートラインに立てたということになりましたので、本当に素直に嬉しいと思っております。

(広島県 横田知事)

県としましても、これまで勉強会への参加もさせていただいておりますが、広島で、コンサートなどの様々な楽しみに繋がるようなニーズが拾いきれていなかった状況に対し、この新アリーナが実現すれば、県のグリーンアリ

ーナとともに相乗効果を発揮して、若者にとっても魅力あるまちづくりに繋がり、広島市都心の更なる活性化に資する、さらには、波及効果を県全体に及ぼすことができれば、県の魅力にも繋がってくると考えておりますので、これをしっかり議論して、進んでいかなければならないという思いを新たにしているところでございます。

(広島市 松井市長)

このアリーナ建設候補地を含む駅周辺は、産学官民の懇談会での議論を踏まえて、県と市で作っています「ひろしま都心活性化プラン」、そこでも「広島陸の玄関」と位置づけるとしておりますし、二葉の里の区画整理事業とか来年度完成予定の広島高速 5 号線、こういったものと一体化してですね、歩行環境を整えていくということを書いて、新たなにぎわいを生み出す地域にしたいという広島の立場なんですけども、この新アリーナについて、広島陸の玄関の新たなシンボルとして、オール広島で考えていこうと、こういったことができましたこと、これは素直に私も喜んでいいんじゃないかなと思います。

実際、今、申し上げた、ひろしま都心活性化プランに基づいてできあがったエディオンピースウイング広島も、歴史・文化・スポーツ交流ゾーンとして位置付けて、今まさにここで記者会見すると言っていますけれども、これと同じように多くの方に喜ばれるような施設、建設に向けての第一歩を踏み出せたと思っていて、しっかりと協議していきたいと思います。

(テレビ新広島)

今日、始まったこの協議会のゴールというか、いつまで、どのくらいのペースでやるのでしょうか。

(広島ドラゴンフライズ 浦社長)

ご質問ありがとうございます。いつまでというのと、どのくらいの頻度というのはまだ決めてはいないのですが、2031 年を目指すとなると、逆算していくとある程度、今年、来年くらいまでにはいろんなこと決めていかないといけないのかなと思っています。ただ丁寧に議論していくということが非常に重要なことだと思いますし、丁寧にご説明、議論を重ねることが先ほども申し上げているとおり、オール広島という形に繋がっていると思いますので、その辺りはしっかり、丁寧にご説明させていただきながら、進めていければと思っています。

(テレビ新広島)

ゴールは 2031 年ということであると、1 年くらいかなと勝手に想像していたんですけど、そういった目途というのはありますか。

(広島ドラゴンフライズ 浦社長)

そうですね、できる限りもちろん早ければ早い方がいいんですが、急ぎすぎてというのも良くないことだと思いますので、本当に皆さんとしっかり議論した上で、一つずつ丁寧に、進めさせていただければと思っています。それが 1 年であればなおいいかなと思いますけれども、その辺りは、皆さんでしっかり、議論して進めていきたいと思っています。

(テレビ新広島)

今日の協議会の中で事業費にふれたのは会頭だけだったかなと思いますが、事業規模・予算規模はだいたいどのくらいなのか、県民・市民は知りたいところだと思います。事業費について方向性があれば教えてください。

(広島ドラゴンフライズ 浦社長)

ありがとうございます。そうですね、そのあたりも今からだと思っています。ただ土地の面積に対して 1 万人となると、大体、プロの方はご想像できるんじゃないかなと思っていますが、私自身はそこに関しては素人なので、あまり軽率なお答えはできないですが、確実に言えることは、建設費の高騰が起きているというのは間違いないことだと思いますので、そのあたりを踏まえてどのような事業規模で、予算規模でできるのかっていうのは、今から、しっかり検討していかないといけないかなと思っています。専門家のご意見等々聞いて、決めていくようなことになるんじゃないかなと今のところ思っております。

(テレビ新広島)

代表からは最後の質問になります。

本日、このエディオンピースウイング広島で会見を開かれましたが、この場所を選ばれたことには何らかの意味や思いがあるのではないかと感じています。どういった意味でこの場所を選ばれたのか、お聞かせください。

(広島ドラゴンフライズ 浦社長)

先ほどのご説明の中で少しお伝えしきれなかったのですが、今回の「オール広島」「広島らしさ」という観点において、やはり、広島東洋カープ様がマツダスタジアムを建設され、広島県民・市民の皆様に本当に多くの感動を届け、素晴らしい成長を遂げてリーグ 3 連覇を果たされたこと。そして、サンフレッチェ広島様がエディオンピースウイング広島を誕生させ、今やチケットが手に入らないほど非常に人気のクラブになられていること、これらは、私たちにとって大きな道標です。

私たち「3 番目のプロクラブ」として、偉大な先輩クラブの背中を見つめる中で、やはりハード面をしっかりと整えていくことこそが、クラブのさらなる成長、そして何より人々に感動をお届けすることに直結するのだと強く実感いたしました。

「カープ様やサンフレッチェ様を追いかけたい」という強い思いを込めて、ぜひこの場所で行わせてほしいとお願いさせていただきました。記念すべき第 1 回目の会見を、私たちが目標とする先輩方の力を借りる形でこの場所から発信できれば、これ以上ない素晴らしいスタートが切れるのではないかと考え、本日この場所で開催させていただきました。

(テレビ新広島)

ありがとうございます。代表からは以上です。

(司会)

続きまして、各報道機関の皆様からご質問をお受けいたします。ご質問のある方は挙手をお願いいたします。

(中国新聞)

中国新聞の加納と申します。まず市長にお伺いします。

浦社長が事業スキームに触れられ、負担付き寄附についての発言がありましたが、市長からも「検討する」という趣旨のことをおっしゃられました。具体的に、検討するというのは、どういったステップや場になるのかお考えがあればお聞かせください。

(広島市 松井市長)

検討というのは、この手法が具体的にどういった意味合いがあるのか、行政の立場でどうした仕掛けになるのか、直ちには分かりませんから、それらをやること、また、アリーナを造り、維持する、そうした中で、市の収入とかいったものにどういった影響があるのか、つぶさに検証していった方が良いと思いますし、行政の立場以外に、民としてやることに、どういった意義があるか、効果があるのか、みなさんとよくよく議論して、さきほど出された事例でも、全てが全てやっているわけではなく、一例として出ておりましたので、様々な協力の仕方がありますから、その中でこれを決めるというのであれば、決め手はここだなということを探し出す検討作業が必要だと考えています。

(中国新聞)

検討作業のスケジュールについては、どのようにお考えでしょうか。

(広島市 松井市長)

今日、こういった形で提案がありましたから、当然市のスタッフ来てますから、これから一生懸命考えると思います。考えるように言っておきます。

(中国新聞)

ありがとうございました。

横田知事にも同じような質問になりますが、浦社長のお話を受けて考えがあれば聞かせてください。

(広島県 横田知事)

事業スキームについては、今日お聞きしたばかりですので、これから皆様に議論され、課題だとか、どういった検討が必要であるかとか、そうしたことから洗い出していくものと思いますので、今後、皆様に考えていくことになるのだろうと思います。

(中国放送)

中国放送の平田と申します。JR 西日本さんにお伺いします。

アイシンアリーナは土地の定期借地となっていますが、今回、JR 西日本さんのご協力というのは、どのようにお考えでしょうか。

(JR 西日本 飯田支社長)

ありがとうございます。

今回は、ドラゴンフライズさまを中心とした発起人の皆さまから、弊社の広島駅前の土地にアリーナを造りたいというところからこの協議会も始まっているわけですので、弊社の土地を活用していただく形で協力していきたいと考えており、一般的には土地をお貸しする形になるかと考えております。

(中国放送)

ありがとうございます。改めて浦社長にお伺いします。

なぜ今回、こうした事業スキームをご提案されたのでしょうか。

(広島ドラゴンフライズ 浦社長)

ご質問ありがとうございます。今からの議論だとは思いますが、我々も色々な事業スキームを様々な角度で分析して、学習して、研究してまいりましたけれども、先ほど申し上げた昨今のこの建設コストの高騰であったり、公共性、公益性が高いという、我々バスケットだけでなく、色々なイベントだったり、色々なエンターテインメント、色々なことができるということになりますので、そういった観点からも、広島らしい、広島らしさということが最も表現できるスキームではないかなということで、ご提案をさせていただきました。中身に関しては今からだと思いますので、一つは、具体的な話は今からですが、方向性的にはオール広島が実現できるような最適解なスキームなんじゃないかなと今、個人的には色々なスキームを見て感じてるということでございますので、その辺りまた検討していただいて、ここはどうなんだっていうことで、具体的に今からお話になると思うんですが、今のところそう考えております。

(NHK)

NHK の林です。浦社長にお伺いします。

「オール広島」「官民連携」という言葉が本日何度も出ました。一方で、官民それぞれが求めるニーズ、コスト面、詳細な事業手法、これから検討していくことも多くあろうかと思えます。

2031 年開業という目標もある中で、現時点で最も大きな課題は何だと考えていらっしゃいますか。

(広島ドラゴンフライズ 浦社長)

ありがとうございます。やはり事業手法が決まっていけないと次のステップに行けないなと思っておりますので、今日途中で申し上げましたが、事業計画についても、JR 西日本さんに本日ご依頼した形になります。最終的には事業手法とか事業計画が詰まってきた段階で、それぞれの役割が決まってくると思います。我々の役割しかり、例えば JR 西日本さんの役割が、明確になってきて初めて動き出すと思いますので、課題やそれぞれの役割を明確にさせてそれを、集結させることによってオール広島っていう形になると思いますので、そこを決めていく、ということが、最も重要なことというか、そこで初めてスタートに立っていけるとと思いますので、それに至るまでに、いかに議論をして、最適解な方法を探していくというのが、この与えられた期間の中でしっかりやるべきことかなと今、思っております。

(山陰中央新報)

山陰中央新報の錦織と申します。浦社長にお伺いします。

協議会でとりまとめる方向性という中で、事業スキームや事業規模もありますが、これらは同時並行で議論を進めるのでしょうか、それとも優先順位を付けて議論を進めるのでしょうか。

また、三河安城の事例のような「民間が整備し自治体へ寄附する」スキームが、今後の協議会の議論のベースになるのでしょうか。

(広島ドラゴンフライズ 浦社長)

ご質問ありがとうございます。そうですね、おっしゃる通り、まず事業手法と事業規模が分からないと話が進まないと思いますので、今日たまたまこういう形でのご提案になりましたが、まず、検討していただく、我々ももちろん、今まで積み上げてきたものがありますので、情報提供とか、議論をさせていただきながら、順番的にはスキームと規模の話を決めていかないといけないとは思ってますので、その議論になってくると次は思います。

スキームは、全く同じにはならないと思っていますが、負担付き寄附はこの広島ならではの形に近いんじゃないのかなと思っています。三河安城さんのスキームをそのままそっくりというわけではないと思いますが、そういう形が非常に良いのかなと、我々は今考えております。

（朝日新聞）

朝日新聞の小林と申します。アイシンアリーナのスキームがもしかしたら軸になってくるかもしれないという点について、浦社長にお伺いします。

行政からの補助も想定されているのでしょうか。また、その規模について現時点での考えがあれば教えてください。

（広島ドラゴンフライズ 浦社長）

ご質問ありがとうございます。まだ具体的にいくらとかということは、全く考えてはおりません。今からの話だと思っています。先ほどご説明した通りアイシンアリーナ（三河安城）と全く同じとは思っていないので、ここを今からスキームの中身を最終的にはその負担付き寄附という、我々が建設したものを、市に寄附をさせていただくということはいいいと思っているんですけども、その中身に関してはですね、今からの議論だと思っていますので、現時点じゃあいくらとかそういうことはまだで、今からの議論なんじゃないかなと考えています。

（朝日新聞）

アリーナの事業規模についてはいかがでしょうか。

（広島ドラゴンフライズ 浦社長）

そうですね、中身にもよると思います。どこにコストをかけて、どう投資して、どれくらいお金をかけてということがあると思いますので、単純にいくらだっていうことは今、なかなか申し上げにくいですが、今の出てる金額よりは、建設コストがもう遥かに高くなっていることは事実言えると思いますので、そのあたりは想定しながらやっていかないといけないのかなと思います。ただ一方で今日もお話をさせていただきましたが、素晴らしいコンテンツを呼び込むためには、音響の設備だったり、演出の設備だったり、荷重の設備だったりっていうのは十分に準備しないと来ていただけないことは、よく分かってますので、そのあたりをいかに、最大に効率化し、最小のコストで最大のパフォーマンスが出せるようにもちろん考えていきたいとは思いますが、今からそこは、しっかり議論して勉強していきたいと考えております。

（中国新聞）

中国新聞の鈴木と申します。横田知事にお伺いします。

オール広島という中で、広島県として、新アリーナにどのような関わり方ができると考えていますか。

（広島県 横田知事）

広島県としては、グリーンアリーナを運営しているということがございますので、まずは、利活用に関して、新アリーナだけではなく、グリーンアリーナも含めて、広島として、どういう需要を引っ張ってきて、利活用をどのようにしっかりしていくのか。そして、やはりオール広島ということでありますが、県としては、県全体がしっかり活性化することを目指していきたいと思っています。

（中国新聞）

中国新聞の伊藤と申します。広島商工会議所の松藤会頭にお伺いします。

2点ありまして、この協議会に先月末から参画されたということなんですけども、商工会議所の立場として今回参画される意義と、また、改めて、エディオンピースウイング広島とマツダスタジアムの建設時には、商工会議所の方々がかなり音頭とられて、寄付も呼びかけられたと思うんですけど、今回の新アリーナの実現に向けては、どのような協力の在り方、方向性も含めてお伺いできればと思います。

（広島商工会議所 松藤会頭）

ありがとうございます。

新アリーナの建設、この機運が非常に今高まっている中で、さきほど申しましたように、お話をいただいたのは先月終わりということで、そして今日、いきなりこの場に座らせていただいているということになります。

若者の多くが、また、いろんな方々がスポーツだったりイベントだったりコンサートを楽しんでいただく、もっと広島で過ごしたくなるような、そういった明るい未来が描けるような実現を商工会議所としても、ぜひその一翼を担いたいという思いを持ってここに座っています。

ただ、寄付ということをしていただきましたが、会議所としては、民間施設に対して寄付を募るとか、支援をお願いするという立場にはないと心得ておりますので、やはり今後の事業スキームや運営スキームがどう今から進んでいくのかということをしっかり聞かせていただきながら、マツダスタジアムであったり、このエディオンピースウイング広島、そういった時に私どもがどう役割を果たしてきたかという経験もありますので、そこを活かして、もし我々の出番があるようであれば、前向きにしっかりと支援してまいりたいと思いますので、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

（司会）

ありがとうございました。

それでは、質疑応答は以上とさせていただきます。

皆さま、本日は誠にありがとうございました。